

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475300693	事業の開始年月日	平成15年12月1日
		指定年月日	平成15年12月1日
法人名	工藤建設株式会社		
事業所名	グループホーム フローレンスケアたかつ		
所在地	(〒213-0026) 川崎市高津区久末1744-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 名	
		宿泊定員 名	
		定員計 18名	
		ユニット数 2ユニット	
自己評価作成日	令和4年10月10日	評価結果 市町村受理日	令和5年3月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>温かい雰囲気作りをスタッフ全員で意識し、またサービスコンセプトの『こころ良さ』を追求している。入居者の出来ない事に目を向けるのではなく、何が出来るのかに視点を向け、手助けしながら自立した張りのある生活に繋げている。</p> <p>楽しみの一つの食事については、手作りの物を提供し、健康を維持している。</p> <p>18名のご入居者の内、3名が入居されてから10年が経っており、日々、スタッフによる生活リハビリを懸命に行っている事の成果もあり、他の入居者も含めて大きなADL等の変化もなく過ごすことができている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和4年11月4日	評価機関 評価決定日	令和5年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 「グループホームフローレンスたかつ」はJR南武線武蔵溝ノ口駅と東急田園都市線溝ノ口駅からバスで20分、最寄りのバス停より徒歩5分の閑静な住宅地にある。グループホームは1、2階にあり、1階には通所介護事業所が併設されている。居室はリビングを囲むように配置されている。キッチンからも利用者の様子が見え、職員は常に利用者を見守れる環境である。</p> <p>【「こころ良さ」の実現】 事業所は緑に囲まれ日当たりが良い。利用者は、広い敷地内を散歩したり、家庭菜園で野菜・果物作りを楽しんでいる。職員と一緒に掃除や食事作り、食器拭きなど出来る事を行ったり、法人から訪れた作業療法士によるリハビリを行うなど、日々を楽しく過ごしている。春には桜観賞や秋には紅葉狩りに車で出かけるなど、事業所は、理念である「心地よい暮らし」を提供できるよう努めている。</p> <p>【食事を楽しむ支援】 事業所は食を重要と考え、毎日、業者が配達した食材を使い、昼食と夕食を調理専門の職員が手作りしている。クリスマスなどの行事食は利用者好みの食事を提供している。そうめん流しを行ったり、毎週土曜日には近隣のコンビニエンスストアから調理パンの配達をして貰うなど、様々な工夫をしながら食事を楽しむ支援をしている。</p> <p>【職員への業務周知と情報共有】 月1回、ユニット毎に行うフロア会議は、公休の職員を休日出勤扱いとし、全職員が出席している。行事計画、事故報告、総務関連の連絡のほか、全フロアのカンファレンスも同時に行っており、利用者情報も共有している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームフローレンスケアたかつ
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

事業所名	グループホームフローレンスケアたかつ
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念、事業方針を事務所・各フロアに掲示し共有している。	事業所理念は事務所・休憩室・スタッフステーション・フロアに掲示し、朝礼で唱和し周知している。事業理念は「思いやりの心と確かな技術で介護高齢者の明るい未来を」となっている。職員は「思いやりのこころ」を念頭に利用者本位のケアをめざし、「確かな介護技術」の習得にはチームケア力の向上が必要と理解し日々実践に務めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域の活動等自粛されている為、参加ができていない。	久末町内会に加入し回覧板により地域情報は把握している。コロナ禍で地域行事が中止されている中、毎月1度行っていた清掃活動をホーム周辺は利用者と一緒にやっている。事業所の隣には、町内会副会長を務めるオーナーの自宅があり、季節のたけのこや野菜、流しそうめんに使う竹を頂くなど友好的な関係を築いている。併設通所介護事業所を訪れる歌唱指導のボランティアに歌のDVDを作成してもらい、歌を唄って楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を回覧板に載せて紹介をしている。現在、コロナ禍による活動が制限されている為、今後、地域の活動に参加をして認知症に関しての理解を深めてもらいたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、書面での開催となってしまっている。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。メンバーは町内会副会長、久末地域包括支援センター職員、家族代表2名、同法人小規模多機能型居宅介護事業所職員となっている。今年度は書面開催で活動報告や行事報告書を送付している。メンバーからは、励ましの言葉や状況確認の連絡はあるが、意見は出ていない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上迷う事があれば、都度相談し、業務にあたっている。	要介護認定時には、高津区高齢・障害課を訪れている。高津区保護課には、生活保護を受給している利用者の外部受診の際に、電話で事前報告をしている。神奈川県や横浜市、川崎市から研修案内を入手している。10月には横浜市総合リハビリテーションセンター主催の「移動・移乗の基本について」の研修に職員が参加した。受講後に事業所内で受講内容について伝達研修を行った。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	オンライン研修の実施と3か月に一度の身体拘束委員会の実施により、情報の共有と「身体拘束の手引き」の資料をフロアに置いている。	法人が今年9月に作成した「身体拘束適正化及び虐待防止の為の指針」を職員に回覧し周知している。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度開催している。メンバーは管理者、計画作成担当者、介護主任代理、ホーム看護師、職員代表2名となっている。今年3月に指針理解度テストを実施している。動画研修を1月と7月に行い、後に報告書提出、理解度テストを実施した。帰宅願望がある利用者には傾聴し、落ち着くのを待ち気分転換に散歩のお誘いするなどして対応している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンライン研修の実施と一斉点検の実施を行い、不適切ケアの事案等があれば、フロア会議等で話し合いを行っている。	虐待防止委員会も身体拘束適正化委員会のメンバーで構成され、動画研修を年2回行っている。不適切なケアがあった時はその場で管理者が指導している。「ダメと言わない」「止めてと言わない」「違うでしょと言わない」などの「禁句六か条」がスタッフステーションに掲示されており、虐待防止の徹底を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	いつでも閲覧ができるようにしており、研修においての資料をもとに、会議等を通してフィードバックをしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項説明書の読み合わせを行い、疑問や不安がないように、安心して契約できるよう配慮をしている。			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映	コロナ禍の為、運営懇談会の開催でなく、書面での報告とご家族からの意見等を聴取し、運営に反映させている。面会時にも、ご意見等を伺っている。	管理者、計画作成担当者、介護主任代理をメンバーとした「運営懇談会」を6月と12月に開催している。今年度は書面開催とし、活動報告や事故報告等を全家族に送付した。その際に家族に意見を聞いているが特に出していない。居室担当者が作成した利用者の近況のお手紙を、請求書送付時に同封している。年4回発行している小冊子「ほほえみ」に利用者の様子が分かる写真を掲載し、送付している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を毎月実施しており、スタッフの意見や提案に対して検討する機会を設けている。	月1回フロア会議を開催し連絡事項やカンファレンスを全職員参加で行っている。職員からは人手不足や休憩が取れないなどの意見があり、タイムテーブルの見直しを行った。人手不足に対しては、法人事業本部に相談し、応援の職員が派遣される事もある。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部に報告・相談を行い、環境の整備・改善等を行っている。	年1度、常勤社員を対象に面談を実施している。前年度の実績を自己評価し、管理者が面談を行って、昇給や昇格の評価をしている。法人には評価の報告を行っているが最終評価は管理者となっている。介護支援専門員更新研修費は法人が全額を負担している。介護福祉士資格の取得時には報奨金が支給され、資格手当も支給される。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修の実施し、フィードバックを行っている。管理者研修の機会があり、管理者自ら成長できる機会を与えられている。	キャリアパス制度があり職員に周知している。動画による研修を年間計画に沿って実施しており、勤務時間外に自宅で受講した場合も残業代が支給される。新入社員に対してはエルダーメンター制度を導入し、個々に合わせた期間を決めないOJTを行っている。非正規社員から正規社員への登用制度がある。勤務時間の制約から、今のところ正規社員への転換を希望する職員はいない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍により、他施設との交流はできていない。スタッフの異動により、事業所のサービスの質・活性化の向上に繋がっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当制にしており、アセスメント表に記入してある内容をスタッフ全員が把握し、ご本人と接し、話しやすい環境を作り、安心感を持っていたる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、面会時、電話時の際にご様子や意向等の話をさせていただきながら、ご家族のご要望等を伺い、記録に残している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際、ご本人やご家族よりご要望等を聞き、必要としているサービスがあれば、他職種との話し合いを行い、ご家族にご提案ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒にできる事を見つけ、スタッフは家事等をサポートしながら共に生活をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時および電話連絡時に現状のご様子をお伝えしている。コロナ禍により行事については、現状ご家族の出席はお断りさせていただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍によりご家族以外との面会や外出が困難となっている。	事前予約制でひと家族3名迄、15分間との制約はあるが、相談室、玄関と敷地内で面会を行っている。知人には電話や手紙の取次ぎを行っている。家族と携帯電話で会話をしている方やお正月には家族へ手書きの年賀状を送付している方もいる。入居前からの趣味の将棋、塗り絵や点つなぎなどの継続を支援している。雑誌や新聞購読や家族持参で炭酸飲料を愛飲する方がいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフがご入居者一人ひとりの性格を把握しており、ご入居者同士の関係性が築けるようレクリエーションや家事等を提供しながら孤立しないよう支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居したご家族や入院により、退去された家族などと、連絡等行う事もある。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人・ご家族の意向等を聞き取り、ケアカンファレンス等で話し合い、共有し検討している。	入居前に家族や介護支援専門員から情報収集を行いアセスメントに反映させている。発語の難しい方には、選択肢を示し、表情や目線等の反応で意向を把握するようにしている。把握した意向や意見は各フロアにある「暮らしのノート」に記載して出勤時に全職員が確認し共有している。「支援経過記録」にも記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント票及びご本人やご家族との会話の中で、出来るだけ多くの情報を得る努力をし、スタッフ間で共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や記録、チェック表等で把握に努めている。主任による記録の確認等も行い、記録の充実を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には、意向確認書や面会時にご家族の意向を確認している。ご本人には直接意向等を伺い、計画作成担当者と居室担当者（スタッフ）のそれぞれの立場での考えを合わせ作成している。	初回ケアプランは入居前に作成したアセスメントを参考にし1ヶ月から3ヶ月で見直し、2回目以降は短期6ヶ月、長期目標を1年とし、居室担当者作成の「ケアチェック表」を参照しモニタリングを行い、利用者、家族の意向を確認して作成している。ケア記録はスタッフステーションにあるパソコンに入力し、利用者のサービス提供記録はケアプランの内容がクリアファイルに挟み込まれ、提供した内容を記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護ソフトに様子等入力し、他のスタッフも確認し情報を共有しながらケアカンファレンスに反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面などの相談があり、ここでの生活に支障が出た場合ご本人・家族にとって安心出来る場所への他機関を含め情報を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍による、外部との接触ができていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関及びご家族と連携をとり、医師の指示にて受診対応を行なっている。	内科は全員協力医療機関で月2回の訪問診療を受診している。歯科は毎月、眼科は3ヶ月に1度、来訪し希望者を診察している。内科往診時は看護師同行で管理者、事業所看護師、介護主任代理人も同席し、事業所看護師が「訪問診療報告書」を作成し情報共有をしている。事業所看護師は週4回勤務で、バイタルチェックや褥瘡の処置、状況不安定な利用者への職員対応について指示している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤時に相談し対応している。急な場合は往診医へオンコールし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時看護介護サマリーや生活状況を適切に医療機関に伝え、退院時のカンファレンス、電話等による医師・看護師から情報を得て、ホームでの生活が安心して送れる様努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医とご家族の面談の機会を設け急変時の対応等ご家族より同意を頂いている。	入居時に「看取り介護に関する指針」を説明し「重度化した場合における対応に係る同意書」に同意を得ている。「意向確認書」により本人、家族の意思確認を行っている。医師が終末期と判断した際に意向確認を再度行い、「看取り介護に関する指針」を説明し「看取り介護についての同意書」に同意を得て、看取り介護を行っている。今年度看取りはないが、動画研修を行い、更に事業所の看護師や看取りの経験がある職員が研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを常に目の届く所に置き、直に連絡出来る様にしている。主要の連絡先も壁に張り出している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中及び夜間を想定して実施している。運営推進会議での書面にて協力をお願いしている。	昨年11月に夜間想定、今年5月に日中想定で避難訓練を行った。町内会副会長に声掛けし地域の方々に協力を依頼してもらったが、コロナ禍の為、参加はなかった。緊急時は職員や家族の協力が得られる体制になっている。備蓄品は1階の階段下スペースと2階に職員分を含め食料、飲料水など5日分が保管され、備蓄台帳で管理されている。	台帳管理はされていますが、備蓄品が分散して保管されている為、保管場所や賞味期限の確認がしづらい状況です。いざという時、誰が見てもわかるように工夫される事を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オンライン研修を行い、ユニット会議等でも言動に注意する様伝えていく。	動画による接遇研修を4月に行った。利用者の呼び方は「名字」に「さん」付けとしている。トイレ誘導時は小声で声掛けをし、周りに聞こえないように注意している。トイレや居室のドアを閉めて介助を行いプライバシーに配慮している。個人情報が含まれる書類等は鍵のかかるキャビネットで保管し、パソコンはパスワードとIDが設定され、入力・閲覧出来る範囲は管理者と職員で区別されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を作り選択しやすい工夫をして、その人らしい生活が営める様、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事やレクリエーション等提供するが無理強いせず本人のペースで生活出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や整容等、個別に馴染みの物を使用している。訪問理美容も毎月入り、ご本人の意思にて行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフがサポートして調理や片付け等を行っている。食事が楽しみになるよう、季節や行事に合わせてた食事を提供している。	食事を楽しむ事を重要と考え、様々な支援をしている。昼食と夕食は調理専門スタッフが作っている。朝食はパン中心となっているが、食材は毎日業者がレシピ付きで配達している。利用者は盛りつけ、食器洗いや食器拭きを手伝っている。オーナーから竹を頂き、そうめん流しを行った。毎週土曜日は近隣のコンビニエンスストアから調理パンを配達してもらい、利用者は好きなパンを選んでいる。敷地内の菜園では夏にとうもろこしやトマトを植えて育てている。収穫後の野菜は食卓に並ぶ。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事形態を考え、その日の体調を考慮して食べやすく提供している。食事量のチェックや水分量が少ない方には嗜好品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その人にあつた口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンをチェック表等を通して把握し失禁の無い様、定時以外でのトイレ誘導を実施している。	自立の方は少なく、ほとんどの利用者はリハビリパンツとパッドを使用しているが、排泄パターンを把握し、トイレへの定時誘導を行っている。個々に合わせ誘導を行っている。夜間は睡眠優先とし大きめのパッドを使用しているが、定時誘導をしている方もいて個々に対応している。日中と夜間にそれぞれトイレの清掃を行い、衛生に気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や、水分量を1日1,000CC以上摂れる様、こまめに提供している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の体調や希望により週2回の入浴をし、お風呂がお好きな方には、ご本人と相談しながら、ゆっくり入っていただいている。曜日はほぼ毎日提供しているが、時間は9:00-16:00の間と限らせている。	入浴は原則週2回としているが、状況に応じて週3回になる事もある。入浴を好まない方が、清拭から始め足浴、シャワー浴、浴槽と少しずつ方法を替えて慣れてもらう事により浴槽に入れるようになった。オーナーから頂いた柚子や菖蒲を入れて季節を感じてもらっている。車椅子を利用する方はシャワー浴での対応になることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明の明るさや室温等個別に調整し、好きな時間や体調に合わせて静養等をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書をフローアに置き開示している。 薬の変更があった際には、ふらつきや眠気等、ご本人の体調の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来る役割や楽しみを見つけ、盛り付けや洗濯物を畳む、歌を歌うなどを行ってもらい、気分転換等に繋げている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、屋外への外出はできていない。敷地内の散歩は行っている。	コロナ禍という事もあって、近隣への散歩には行っていないが、敷地内で散歩をしたりベンチに座り外気浴をするなどしている。菜園の水やりをする方もいる。日差しの当たる窓側にソファを置いて、屋内での日光浴を毎日行っている。車で近隣の公園へ出かけ3月に桜見物、11月に紅葉狩りを行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍により、屋外に出られない為使用していない。自動販売機での購入はしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は、ご家族への連絡をさせていただいている。手紙は、ご家族等から来た場合には、ご本人にお渡ししている。年賀状は毎年、書いていただき、ご家族へお渡ししている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝一緒に掃除を行い衛生面に留意している。レクリエーション等でフロアの飾りを作成したり季節の行事等行い楽しんでいただいている。	毎朝行う清掃の際は、職員と一緒に利用者もモップ掛けを手伝っている。居室はリビングを囲むように配置され、キッチンからも利用者の様子が見えるようになっている。カウンターがあり、調理作業がしやすいようになっている。リビングは、窓が大きく日差しが差し込み明るい。壁には習字や塗り絵、季節の飾りつけを掲示している。壁にコロナ対策用空気清浄機が設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内には談話室や食堂等で気の合う仲間と過ごせる空間や、廊下に椅子を置くなどし、一人で過ごせる時間を作っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の使っていた物（家具）等を持ち込んで頂き、馴染みのある物の中で生活していただいている。	居室にはエアコン、クローゼット、電動ベット、換気扇、防災カーテンが備え付けてある。使い慣れた机やチェスト、縫いぐるみや写真、誕生日会の色紙などが持ち込まれ、ゆったりとしたスペースで過ごされている。ボランティアの方が作成した表札を利用されている方がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを掛け、トイレ等は分かり易く表示している。居室にある、タンスを安全に開けられるよう椅子を置くなどのレイアウトを行っている。車椅子を自走される方に対して、導線を物を置かないなどをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念、事業方針を事務所・各フロアに掲示し共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域の活動等自粛されている為、参加ができていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を回覧板に載せて紹介をしている。現在、コロナ禍による活動が制限されている為、今後、地域の活動に参加をして認知症に関しての理解を深めてもらいたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、書面での開催となってしまっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上迷う事があれば、都度相談し、業務にあたっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	オンライン研修の実施と3か月に一度の身体拘束委員会の実施により、情報の共有と「身体拘束の手引き」の資料をフロアに置いている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンライン研修の実施と一斉点検の実施を行い、不適切ケアの事案等があれば、フロア会議等で話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	いつでも閲覧ができるようにしており、研修においての資料をもとに、会議等を通してフィードバックをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項説明書の読み合わせを行い、疑問や不安がないように、安心して契約できるよう配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、運営懇談会の開催でなく、書面での報告とご家族からの意見等を聴取し、運営に反映させている。面会時にも、ご意見等を伺っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を毎月実施しており、スタッフの意見や提案に対して検討する機会を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部に報告・相談を行い、環境の整備・改善等を行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部研修の実施し、フィードバックを行っている。管理者研修の機会があり、管理者自ら成長できる機会を与えられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍により、他施設との交流はできていない。スタッフの異動により、事業所のサービスの質・活性化の向上に繋がっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当制にしており、アセスメント表に記入してある内容をスタッフ全員が把握し、ご本人と接し、話しやすい環境を作り、安心感を持っていただける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、面会時、電話時の際にご様子や意向等の話をさせていただきながら、ご家族のご要望等を伺い、記録に残している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際、ご本人やご家族よりご要望等を聞き、必要としているサービスがあれば、他職種との話し合いを行い、ご家族にご提案ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒にできる事を見つけ、スタッフは家事等をサポートしながら共に生活をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時および電話連絡時に現状の様子をお伝えしている。コロナ禍により行事については、現状ご家族の出席はお断りさせていただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍によりご家族以外との面会や外出が困難となっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフがご入居者一人ひとりの性格を把握しており、ご入居者同士の関係性が築けるようレクリエーションや家事等を提供しながら孤立しないよう支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居したご家族や入院により、退去された家族などと、連絡等行う事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人・ご家族の意向等を聞き取り、ケアカンファレンス等で話し合い、共有し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント票及びご本人やご家族との会話の中で、出来るだけ多くの情報を得る努力をし、スタッフ間で共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や記録、チェック表等で把握に努めている。主任による記録の確認等も行い、記録の充実を図っている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には、意向確認書や面会時にご家族の意向を確認している。ご本人には直接意向等を伺い、計画作成担当者と居室担当者（スタッフ）のそれぞれの立場での考えを合わせ作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護ソフトに様子等入力し、他のスタッフも確認し情報を共有しながらケアカンファレンスに反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面などの相談があり、ここでの生活に支障が出た場合ご本人・家族にとって安心出来る場所への他機関を含め情報を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍による、外部との接触ができていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関及びご家族と連携を取り、医師の指示にて受診対応を行なっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤時に相談し対応している。急な場合は往診医へオンコールし、指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時看護介護サマリーや生活状況を適切に医療機関に伝え、退院時のカンファレンス、電話等による医師・看護師から情報を得て、ホームでの生活が安心して送れる様努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医とご家族の面談の機会を設け急変時の対応等ご家族より同意を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを常に目の届く所に置き、直に連絡出来る様になっている。主要の連絡先も壁に張り出している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中及び夜間を想定して実施している。運営推進会議での書面にて協力をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オンライン研修を行い、ユニット会議等でも言動に注意する様伝えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を作り選択しやすい工夫をして、その人らしい生活が営める様、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事やレクリエーション等提供するが無理強いせず本人のペースで生活出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や整容等、個別に馴染みの物を使用している。訪問理美容も毎月入り、ご本人の意思にて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフがサポートして調理や片付け等を行っている。 食事が楽しみになるよう、季節や行事に合わせてた食事を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事形態を考え、その日の体調を考慮して食べやすく提供している。食事量のチェックや水分量が少ない方には嗜好品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その人にあつた口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンをチェック表等を通して把握し失禁の無い様、定時以外でのトイレ誘導を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や、水分量を1日1,000CC以上摂れる様、こまめに提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の体調や希望により週2回の入浴をし、お風呂がお好きな方には、ご本人と相談しながら、ゆっくり入っていただいている。曜日はほぼ毎日提供しているが、時間は9:00-16:00の間と限らせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明の明るさや室温等個別に調整し、好きな時間や体調に合わせて静養等をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書をフローアに置き開示している。 薬の変更があった際には、ふらつきや眠気等、ご本人の体調の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来る役割や楽しみを見つけ、盛り付けや洗濯物を畳む、歌を歌うなどを行ってもらい、気分転換等に繋げている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、屋外への外出はできていない。敷地内の散歩は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍により、屋外に出られない為使用していない。自動販売機での購入はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は、ご家族への連絡をしていただいている。手紙は、ご家族等から来た場合には、ご本人にお渡ししている。年賀状は毎年、書いていただき、ご家族へお渡ししている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝一緒に掃除を行い衛生面に留意している。レクリエーション等でフロアの飾りを作成したり季節の行事等行い楽しんでいただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内には談話室や食堂等で気の合う仲間と過ごせる空間や、廊下に椅子を置くなどし、一人で過ごせる時間を作っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の使っていた物（家具）等を持ち込んで頂き、馴染みのある物の中で生活していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを掛け、トイレ等は分かり易く表示している。居室にある、タンスを安全に開けられるよう椅子を置くなどのレイアウトを行っている。車椅子を自走される方に対して、導線を物を置かないなどをしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームフローレンスケアたかつ

作成日 令和5年3月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	外部研修に参加する機会は増えて来ているが、研修後のフィードバックができていない。	外部研修の日程が決まったら、フィードバックの日程を決め、実行できるようにする。フィードバックを行う事でスタッフ全員で共有し、スキルアップに繋げる。	スタッフ全員が参加できるようにフロア会議やその他の会議等でフィードバック研修を開催できる仕組みを作る。	1年間
2	35	災害対策でコロナ禍もあり、地域との共同訓練が出来なかった。	地域の方にも訓練に参加してもらい、地域の方からの協力が得られるようにしていく。	地域の活動に積極的に参加をしていただき、近隣の方との関係作りを行っていき、協力体制を維持できるように取り組みを行う。	1年間
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。